

質問者



松本 一二美 議員

Q

## 指定ごみ袋導入には100枚の無料配布を

A

## 無料配布はしません

問

伊予地区ごみ組合の収支決算は、赤字運営なのか。

指定ごみ袋導入は、有料ごみ袋導入と同じ。町民に新たな負担になるごみ袋有料化の根拠は何か。

おむつを常用している障害者、寝たきりの方を介護している家庭、育児に奮闘中で紙おむつ使用の家庭ごみは量も多い。一定量を超える方に指定ごみ袋を購入してもらうのは公平化の面から仕方がないが、一世帯年間100枚程度の無料配布は必要。考えは。

答

高橋生活環境課長

16年度、ごみ組合の収支決算は赤字です。

指定ごみ袋の設定金額はごみ減量効果と住民の受容性を勘案し、他の自治体のバランス、特に伊予市と歩調をあわせる必要から設定しました。無料配布は減量意識の高揚が図れません。

ごみ袋1枚40円の内、原価が12〜13円。配布手

数料が3円。残りは町の収入になります。収入は有効に活用していきます。

無料配布は考えていません。



移動児童館

問

## いじりもの居場所づくりを

松前町児童館条例改正で、使用年齢が18歳までになったが、異年齢の子どもたちに対応できる取り組みとして、既存施設内で未使用の風呂場を部屋として、有効活用を提案する。

中高校生に居場所の提供を。

答

県に照会中

永田福祉課長

風呂場は、老人憩いの家の施設として、国・県の補助を受けて児童館や北公民館と一緒に建設したもので、改造及び目的外使用の手続きについて県へ照会中です。

改造可能ならば、有効利用の方法を検討します。

問

## 寝たきりゼロを目指して

福祉センター2階の高額なパワーリハビリ機器の有効活用を。

お年寄りが自分で歩いて集える地域の集会所・公民館での日常的な介護予防の取り組みが必要。楽しく集えるサロンの推

答

## 利用の拡大を検討

白石町長

機器は、虚弱高齢者の筋力向上事業に使用する目的で国庫補助金を受けて購入したものです。対

進事業の考えは。また、お年寄りが使用しやすいように、トイレを洋式化に。町職員に車椅子体験の実施を提案する。

象者以外の利用を国に問い合わせしており、条件が整えば利用の拡大を検討します。

サロンは現在8箇所。町の介護予防地域支援事業の拠点として、今後も推進していきます。

トイレの改造は、地域空間整備事業として補助制度もあり、地区と協議し整備していきます。



サロン事業